

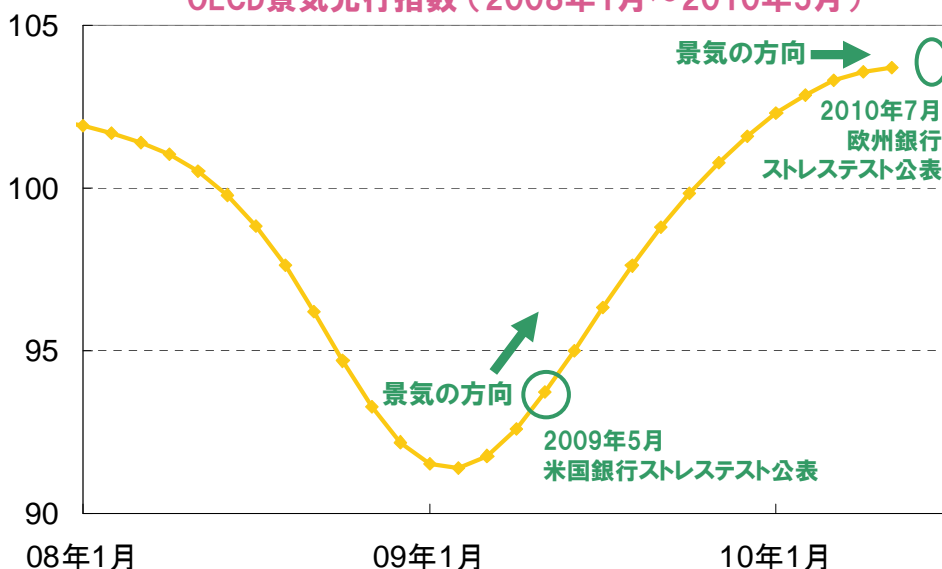
ストレステスト通過後は景気の先行きがテーマに

欧州銀行監督者委員会(CEBS)は先週末、EU域内の銀行91行を対象に行なったストレステストの結果を公表しました。対象の91行中、資本不足行と認定されたのは7行(ドイツ1行、スペイン5行、ギリシャ1行)で、資本不足額は合計35億ユーロにとどまりました。こうした結果に対し、満期まで保有する国債を損失査定の対象外としていることや、大幅な財政赤字国の債務不履行を想定していないなどの点で、テストの甘さを指摘する声も市場ではあがっています。

しかしながら、資本不足行に対して既に公的資金の利用枠が設定されていること、また、総額7,500億ユーロの欧州金融安定化基金が用意されていることなどを考慮すれば、ストレステストの想定する前提条件は、現実には起こりうる最悪のケースに近いものと見ることもできます。今回資本不足を指摘された7行は、既に公的管理や増資計画によって、資本不足解消に向けた動きが進んでおり、これに加えて、今回の一律テストによって大手銀行の健全性が明らかになったことで、欧州の金融システムに対する市場の不安は徐々に解消に向かうことが期待できそうです。昨年5月の米国のストレステスト公表が、その後の金融市場の信認回復につながったように、今回の欧州のケースも市場の信認回復に一定の効果をもたらすこととなるでしょう。

ただし、昨年の米国のストレステスト公表時と現在とでは、景気サイクルの局面が異なることに留意する必要があります。下図の景気指標が示すように、世界的に景気回復初期にあった昨年5月とは違い、足元の景気は既に安定局面に移行しており、景気減速を懸念させる経済指標も散見されるようになってきました。このため、景気がこの先どの程度減速するのかが、市場の大きな関心事となっており、市場が安心感を取り戻すためには、金融システムの不安解消に加えて、景気の先行きに対する不透明感が払拭される必要があるようです。

OECD景気先行指数(2008年1月～2010年5月)



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。